

## 排出ガス浄化装置スイッチ

### ディーゼル車

走行中、排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が点滅したときは、排出ガス浄化装置スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集したススを燃焼（再生）処理（クリーニング）させてください。

- 燃焼（再生）処理は表示灯が常時点滅してから、約150km走行以内に行ってください。

燃焼（再生）処理を行わないまま走行を続けると、ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、すみやかに燃焼（再生）処理してください。

- ブザーを無視して、燃焼（再生）処理をしないまま走行を続けると、メーター内のエンジン警告灯が点灯します。エンジン警告灯が点灯したときは、ただちに最寄りの日野整備工場で点検を受けてください。
- ススの燃焼（再生）処理中は、アクセルペダルを操作しないでください。ススの燃焼（再生）処理が終了する前に、アクセルペダルを踏み込んだり、空ぶかししたりすると、ススの燃焼（再生）処理が中断されます。処理中に作動が停止してしまった場合は、もう一度操作をやり直してください。

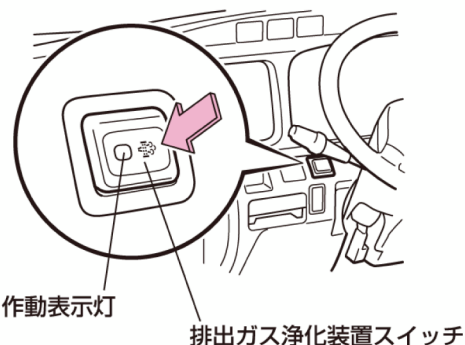
## 知識

DPR\*車は、ススを排出ガス浄化装置に捕集し、自動的にススの燃焼（再生）処理するクリーニングモードとなります。ただし、運転条件によっては、ススの燃焼（再生）処理が完了しない場合があります。そのときは、排出ガス浄化装置スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が点滅します。

これは、排出ガス浄化装置の機能を回復するもので故障ではありません。

\* DPRは Diesel Particulate active Reduction の略

## 排出ガス浄化装置スイッチ



## 排出ガス浄化装置表示灯



エンジン スイッチが“ON”のとき、排出ガス浄化装置スイッチを押すと点灯します。もう一度、排出ガス浄化装置スイッチを押す、またはエンジンを始動したときにススが一定量堆積していなければ消灯します。

エンジンを始動したとき、ススが一定量堆積していると点滅します。

- 点滅が約10秒で消灯すればクリーニングモードであることを示し、自動的にススの燃焼（再生）処理を行います。ただし、排出ガス浄化装置スイッチを押して燃焼（再生）処理を行うこともできます。
- 点滅が約10秒以上継続しているときは、排出ガス浄化装置スイッチを押してススの燃焼（再生）処理が必要であることを示しています。

### 燃焼（再生）処理のしかた

- 1 車を安全な場所に停車させます。
  - 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをマニュアル車は**N**、オートマチック車は**P**の位置にします。
  - 3 排出ガス浄化装置スイッチを押します。
- エンジンはかけたままにしておきます。
  - スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が点滅から点灯にかわり、アイドリング回転数が上がり排気ブレーキが作動します。
  - スイッチの作動表示灯とメーター内の排出ガス浄化装置表示灯が消灯し、アイドリング回転数がもとにもどればススの燃焼（再生）処理は終了です。
  - ススの燃焼（再生）処理は約15～20分程\*で終了します。
  - ススの燃焼（再生）処理が終了するまで、アクセルペダルを操作しないでください。
- \*外気温により異なります。

### 警告

ススの燃焼（再生）処理を行うときは、排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。排気管周辺に燃えやすいものがあると、火災になるおそれがあり危険です。また、ススの燃焼（再生）処理中は排気ガスが高温になりますので、排気管の周辺で作業などをすると、やけどをするおそれがあります。

### 知識

- ススの燃焼（再生）処理が自動で処理しやすくするために、停車時はシフトレバーをマニュアル車は**N**、オートマチック車は**P**の位置にすることを推奨します。
- ススの燃焼（再生）処理はマフラーの中の温度を一定の温度に上げますので、マフラーの中の温度が高いほど早く終了します。
- ススの燃焼（再生）処理はエンジンが冷えているときよりも、運転直後に行うほうが早く終了します。